

こども病院前の巴川の土手に菜の花が咲き始めました。春です。動物たちは冬眠から覚め、植物は新たな芽吹きを迎えます。新たな活動のスタートです。前を向いて進みましょう。

今、世の中ホリエモンに注目が集まっています。確かにインターネットは便利であらゆる情報があり誰でも自由に見ることが出来ます。病気についての情報も良く分かります。しかし、それらの情報は本当に真実なのか、それは実は分かりません。インターネットでは情報を送る側も自由なのです。意地悪く言えば嘘でも自由に載せることができる。その情報の信憑性については受け手が責任を持つしかないのです。その点、新聞やテレビは情報の提供には慎重です。しかるべき情報源や、情報に対する裏どりを必ずしています。ネットとメディアの違いです。ホリエモンの「ジャーナリズムは不要」という言葉にはただ驚くばかりです。怖さを感じます。

<第116回 ほほえみの会>

3人の参加でした。

<第117回 ほほえみの会>

新しい方2組や懐かしい顔も含め9人の参加でした

▽ 1歳7ヶ月男の子、急性リンパ性白血病。熱が出て近くの小児科に行ったところ顔色が悪いと言われ血液検査をした結果こども病院へ。こども病院ではかなり進んでいるといわれその場で輸血を受け、2日前に治療を開始した。今思えば疲れやすかったのかもしれないが、元気もよく病気がわからなかった。気づかなかったのが悔やまれる。病気はテレビの世界と思っていた。周りの人に相談も出来ず、ほほえみの会に来て体験者の話を聞いてよかった。気持ちを前向きに、親子3人でがんばるしかないと思っている。

- ▽ 小学5年生女の子、急性リンパ性白血病。発熱があり風邪薬でも治らないので病院にいったところ総合病院を紹介され病気発覚。治療を受けて寛解になってからこども病院へ転院。入院して3週間たちプロトコールに沿って治療をしているが、便秘でおなかが痛くなったり、食事が出来なかったり治療が辛い、また膵炎の疑いがあるといわれ治療も出来ない状態となり心配。本人も学校に行けないのが辛い様子だ。

参加者からは治療には必ず副作用があってみんな予定通りにはいかないことが話されました。同じ病気だった人からも、やはり膵炎になって絶対安静になったことや、治療を中止したことなどの話がありました。

また、高嶋先生からプロトコールについて説明がありました。プロトコールは病気に対して同じ治療をして解析をしていくものだが、日本ではこれまで治療計画として捉えられ、医師によるさじ加減も多かった。というのも、人によって違う副作用が必ずあり予定通りにはいかないから。欧米ではさじ加減はない。日本でもここ2,3年きっちりやろうという動きが出ている。よって、プロトコールに入らない人も出てくることになる。

- ▽ 高校2年生女子、骨肉腫。こども病院で化学療法の後、県立がんセンターで患部の骨をとり人工の関節を入れる手術をした。経過は順調で再びこども病院で化学療法に入る。が、これまでの抗がん剤の効き目が薄く今後は別な方法をとる。

入院のため出席日数が足りず高校を留年しそうになったが、本人の進級したい強い意志を訴え、また学校にいける日は保健室登校をして、学校とも相談を繰り返した。何とか進級が出来ることになった。

- ▽ 先月は出席者が少なかったため2ヶ月合同の会報とさせて頂きました。

次回 は 4月 10日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>